

大阪大学生命機能研究科

第五回 GCOE 学生主催若手合宿研究交流会

報告書

第五回 GCOE 学生主催若手合宿委員会

大阪大学グローバルCOE プログラム

高次生命機能システムのダイナミクス

1. 本合宿について

<合宿の目的>

本合宿は、生命機能研究科 GCOE プログラム「高次生命機能システムのダイナミクス」の一環として、「異分野融合」を担う人材の育成を視野にいたし、生命機能研究科の若手・学生間での研究交流を目的としている。

5 回目となる今回の合宿では「Communifusion」をテーマとして掲げた。異なる研究分野がそれぞれ融合、交流するためには、相互理解が不可欠である。本合宿を通じて異分野の研究者とコミュニケーションをとり、相手の研究内容や研究背景を詳しく知ることが目的とした。大学院や若手研究者時代にこのような経験をすることが将来的に融合研究を生み出す土壌となると考えた。

そこで本合宿では「相手（異分野）を知ること」に重きをおいたプログラムを用意した。また、多様な文化や分野の研究者とコミュニケーションを図るため、海外研究者の招聘に加え、新たに名古屋大学からも本合宿に参加していただいた。

<合宿の概要>

第5回GCOE 学生主催若手合宿研究交流会は、2011年7月25日（月）から7月27日（水）までの3日間、KKRホテルびわこ（滋賀県大津市）にて開催され、参加者は85名であった。そのうち海外から5名、名古屋大学から5名参加して頂いた。

合宿での共通言語を英語とし、各々の研究を紹介するポスターセッション、自分の所属している研究室以外の研究室の研究内容を他者に分かりやすく説明し、その展望を考えるグループディスカッション、融合研究の実現に向けて直面する困難や必要なことを会場全体で議論するオープンディスカッションなどを行った。また、実際に融合研究に携わっている先生をお招きし、講演および意見交換を行った。

2. ポスターセッション

<担当者>

渡辺大祐（近藤滋研 D3/D5）

酒井裕司（木下研 D4/D5）

伊藤大介（仲野研 D2/D5）、



<目的>

お互いの研究を深く理解することが、融合研究の第一歩となる。ポスターセッションでは学会と同様の形式により、参加者間で相互の研究を深く知ることが目的とする。また今回は、このポスターセッションを通じて興味を持った研究室についてアンケートを採り、グループディスカッションでのグループ分けを行うことも目的としている。

<内容>

ホテル到着後、参加者は予め準備しているポスターを所定の位置に掲示し、特別講演の後にセッションを開始した。14:30～15:30は偶数番号、15:30～16:30は奇数番号の参加者のポスター発表の時間とした。また、17:00～18:00には番号に関わらず、興味のあるポスターに対して自由にディスカッションできる「フリーセッションタイム」を設けた。資料・発表は原則として英語の使用のみとした。

セッション終了後、参加者の投票によってポスター賞を決め、最終日の閉会式にて発表を行った。また、参加者にはポスターセッションを通じて特に興味を持った研究室をアンケートで3つ挙げてもらい、そのアンケート結果からグループディスカッションのグループを決定した。

<結果及び考察>

昨年度と比べ、参加者同士の活発な議論が行われていた。これは、ポスターセッション自体を、合宿のメイン企画であるグループディスカッションと密に関連させることで、その重要性を上げたからだと考えられる。また、参加者の満足度も高く、参加者の65%がポスターセッションに対して「満足」もしくは「や

や満足」と回答した。

<反省点>

主に学生から「時間が短い」という意見が目立った。しかし、例年よりもセッション時間は長くとっているため、この意見はセッション中の議論が予想よりも活発化したことによるものと思われる。また、「偶数・奇数番号の入れ替えが分かりにくい」という意見も多かったため、今後、セッション前の説明の改善やしおりにわかりやすい説明図を載せる等、気をつけていきたい。

そして、「フリーセッションタイム」に関して、一部参加者からは活用方法が分かりにくいという意見があった。また、フリーセッションタイム中にポスター付近に発表者がいないときの対策として、各発表者がどこにいるかをポスターに掲示するための付箋を用意していたが、全く使われなかった。

<改善策>

セッションの構成については、より多くのポスターに触れられるように改善する余地があると思われる。例えば、今回は研究室毎に連番となっていたため、隣り合うポスターが既知のものになっている参加者が多かったが、完全にランダムに並べるという方法がある。また、フリーセッションタイム自体は同じ奇数番、偶数番だった参加者同士もディスカッションができる等、いい面も多く見られたため、フリーセッションタイムの意図の周知を徹底させた上で、時間をもう少し割く等改善していきたい。



3. グループディスカッション

<担当者>

邨次 敦 (木下研 D4/D5)
番所 洋輔 (四方研 D3/D5)
山岡 弘実 (河村研 D3/D5)
西田 優也 (倉光研 D3/D5)
三上 智之 (近藤寿研 D3/D5)
平山 育美 (田中研 D2/D5)
井之上 幸範 (八木研 D2/D5)
中村 愛理子 (小倉研 D2/D5)

<背景と目的>

融合研究には相互理解が欠かせない。異分野の知識を得ることは、“融合”のための重要な一歩である。過去 GCOE 合宿において、グループディスカッションで扱ったテーマは興味深いものではあった。しかし、テーマが抽象的すぎてよくわからない、議論に時間がかかりすぎるといった批判があった。そこで今回は、合宿という限られた時間の中で、直接研究室の人に話を聞くことができる機会をいかし相互理解を深めることを目的とした。そして興味を持った他研究室の研究を、あたかも自分の研究であるかのように紹介し、さらにその研究の展望を考えることを目指した。この成果を全員で共有、確認するために、合宿最終日に発表および討論をおこなった。

<方法>

グループディスカッションは次の様に行った。参加者は 1 日目のポスターセッションで興味のある研究室を選び、その希望を記入したアンケートを提出した。次にアンケートをもとに、興味のある研究室が共通する 6 から 8 人程度のグループに委員が参加者全員を分配した。各グループ内で選んだ研究室の研究内容を理解し、その研究の今後の展望を議論した。各グループは話し合った内容をスライドにまとめ 3 日目に発表をし、全体で質疑応答を行った。最後に、最もよい発表をしたグループを投票によって決定し表彰した。グループディスカッションには合宿期間中のうち 9 時間を割り当て、発表会には 5 時

間を割り当てた。

<結果>

<運営、進行について>

1日目は、グループ分けに時間を要したこともあり開始時間が遅れたが、グループ分けはほぼ全員を希望するグループに配分することができた。それ以降の2日目や3日目においては、滞りなく時間どおりに進行した。

<参加者によるディスカッションの様子について>

議論がスムーズに進行したグループもあれば、時間内になかなか終わらなかったグループもあった。インターネットが使用できたため、研究室のホームページを検索して情報を集めたり、選んだ研究室の方に改めてポスターの前で深く話をきいたりするグループも多かった。発表会は時間が限られていることもあり質疑応答が十分ではなかったが、選ばれた研究室の方々には質問やコメントをしてもらうことができた。



<反省点と考察>

この企画の目的はどのくらい達成されたのか、アンケートに記載された意見もふまえて考えてみたい。まず、異分野の研究を理解するという点においては、「十分に満足した」という意見もあったが、「時間がもう少し欲しい」という意見が複数みられた上に、「議論する研究室からのオブザーバーがいたほうが良い」という意見もあったことから、更なる議論と理解の場を求める意欲的な参加者が多いことがわかった。それでも、アンケート回答者の8割が「他研究室の知識を知ることができた」と回答しており、「有意義な議論を楽しむことができた」という意見も得られたことから、相互理解のきっかけを与えることには成功したと考えられる。次に、



発表の風景

この相互理解をふまえた上で、他研究室の研究を自分達で紹介するという点については、自分の研究とは全く別のことなので議論に苦労したという意見もあった。しかしながら、「専門の人の話もききながら自分たちの **poor** な知識でうまく伝えられる方法について考えることができた」という意見にも代表されるように、興味のある研究内容を自らの知識で表現する場を提示できたという点で、有意義な企画であったと考えられる。

一方でコミュニケーションをとるのに言葉の壁は大きいことも実感させられた。参加者の中には努力してなんとかコミュニケーションをとろうとした方や、他の方に助けをもらいながら議論に参加した方もいた。相互理解を得るためには、言葉の問題は、さけて通れない事柄であり、この点を認識できたことは参加者にとって今後プラスに働くと思う。また、ポスターがあるのにわざわざ他の人がする研究紹介を聞くことに魅力がないという指摘もあった。確かにポスターセッションの時間が少ないという意見も多かったことをふまえると、グループディスカッションをする意義を改めて考えることが今後の課題であろう。

最終的に、アンケートの回答者のうち6割以上は今回の企画に満足していることから、今回の企画の目的である「融合研究のための相互理解」は、ある程度は達成されたのではないかと考える。

4. オープンディスカッション

<担当者>

番所 洋輔 (四方研 D3/D5) 松田 一成 (近藤(寿)研 D3/D5)
西山 浩太郎 (四方研 D2/D5) 山崎 真一 (柳田研 D2/D5)
伊藤 大介 (中野研 D2/D5) 金田 浩平 (濱田研 D3/D5 : 文責)

<目的>

本企画は最先端で融合研究に携わっている研究者の方を招聘し、実績の講演と参加者との討論を通じて、若手研究者に研究融合の具体的なイメージを持ち、今後融合研究を行うための足がかりとなることを目的とした、講師/参加者の双方向の意見交換企画である。

本企画は前回の合宿の特別講演から派生した、今回初の試みである。かねてよりの課題であった「講演内容が自身の研究内容からかけ離れており、十分な理解が得られない」ことに起因する、参加者側が積極的に参加できないという問題の解決のため、「講演内容が特定の分野に特化せず」「参加者全員が問題意識を持って積極的に意見を述べられる」内容で「講演者と参加者が積極的に討論できる」企画をめざした。

今回は融合研究を第一線でマネジメントされている分野融合の第一人者である東京大学の安西智宏先生をお招きし、講演、討論を依頼した。

<実施内容>

講演者 安西 智宏 先生
(東京大学 グローバル COE プログラム
トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ機構)
講演題目 「融合研究を実現するために」



<実施結果と反省点>

今回の企画では1時間の安西先生による講演パートの後、本企画のテーマ、「融合研究の実現に必要なものと課題」、に沿って参加者が意見を提示し、議論を展開する1時間の討論パートの二部構成で行い、企画はすべて英語を用いて進行了た。

本企画は講演のみでなく討論パートの総括も安西先生にお願いする必要があり、事前に松田、番所の両名が先生と打ち合わせを行った上で本合宿に臨んだ。それでもいくつかの点が当日の打ち合わせで変更となり、運営並びに参加者に混乱



を招いた。企画自体は討論パートがあるということもあり、参加者側の積極的な参加、という、前企画の課題は達成されたと考えている。

合宿終了後のアンケート結果では、他企画に比べ有意に満足度が低く(満足+やや満足=約30%)、意見としては、主に「企画の目的がはっきりしない」「討論時間が短い」というマイナス意見のほか、「融合研究の問題点を知ることができた」「普段と異なる視点で考えることができた」等のプラス意見があった。企画意図が伝わらない、という意見については十分に反省すべきである。

これは安西先生も多忙ということもあり、事前に綿密な打ち合わせができなかったことが一因である。以後、意見交換型の企画を行うのであれば、打ち合わせを徹底する必要があり、大学内の教授/准教授の先生にお願いするか、少なくとも関西圏で活動している先生にお願いし、委員側から頻繁に訪問、打ち合わせする必要があったと考えている。

課題の残る企画であったが、従来の特別講演に比べ講師と参加者の討論は活性化され、本合宿の意義に合う挑戦であったと自負しており、次回以降の改善に期待している。

5. 特別講演

<担当者・文責>

加藤 大典（大澤研 D2/D5）

井之上 幸範（八木研 D2/D5）

<目的>

特別講演では、最前線で活躍されている研究者の講演を通じて、若手研究者に新たな知見を提供し、将来の「融合研究」に向けて知識の幅を広げてもらうこと、及び、本合宿の参加者のモチベーションを上げる目的で行った。

<実施内容>

日時：7月25日、13時～14時半

講演者：石黒 浩

大阪大学大学院基礎工学研究科 システム創世専攻
知能ロボット学研究室 教授

演題：「多様な分野を融合したロボット研究」

“Robotics as the hub of various research areas”

使用言語：英語



<結果と反省点>

今回の特別講演では、石黒先生にロボット研究の変遷と現在について概説して頂いた。講演内容は、多様なバックグラウンドを持つ参加者にとって理解しやすいように、石黒先生が開発したロボットからジェミノイドまでの映像を交えたものであった。

講演後のアンケートによると、「全く（自分の）研究とは関係なかったが面白かった」「新たな研究の話が聞けてよかった」などの意見とともに、74%の参加者から満足、及びやや満足という評価をいただいた。

今年の特別講演では、第4回 GCOE 合宿における反省点をもとに、特別講演を2名から1名に減らし、講義時間をトータルで2時間から1時間半に短くした。また、講演内容を専門的になりすぎないように、一般的なものにしていただいたことによって、多くの参加者が理解できるものであったことが参加者の

満足度の向上につながったと考えている。

6. エクスカーション

<担当者・文責>

浅井 泰子（濱田研 D2/D5）

平山 育実（田中研 D2/D5）

<目的>

ディスカッションから離れた場面での交流を通し若手研究者がお互いの理解を深めるとともに、気分転換できる時間を提供する。

<実施内容>

目的地ごとにグループを下記の3つに分け、前日に希望調査を行った。

○比叡山延暦寺観光

◎日吉大社など坂本の街散策

⊗自由行動

エクスカーションは合宿二日目のグループディスカッション後に設けられた。昼食をホテルやバス内でとり、希望する各グループ（⊗以外）にそれぞれ二人の合宿委員が同行し、ホテルが用意して下さったバスで現地へ向かった。

合宿委員は英語の観光案内原稿を用意し、散策をしながら率先して読み上げたり、誰かに読んでもらえるようにして英語での交流を取り入れた。

約2時間の観光の後、バスでホテルへと戻った。

<実施結果>



門前町坂本コースでの様子

延暦寺コース、門前町坂本コースともに、参加者には気分転換を兼ねて合宿開催地付近の歴史情緒あふれる観光地をツアー形式でまわってもらった。事前に英文でガイド原稿を用意しておき合宿委員や参加者が読み上げるという工夫をすることにより、観光のなかに英語での交流を取り入れ得ることができた。想定していた以上の参加者を得ることができた。

目的地は合宿開催地から少し離れた場所にあるためバスでの移動となったが、目立ったトラブルは生じなかった。目的地がよかった・いい気分転換になったという意見や、集計結果で不満が0%であったことに反映されるように、満足度の高いプログラムとなった。その反面、時間が短い・慌ただしいという意見も見られた。

参加者同士で会話している姿が多々見られ、良い交流の場ともなったようだ。



延暦寺コースでの様子

<反省点>

エクスカージョンは合宿2日目に開催したプログラムであったため合宿1日目の夜に参加希望者を募ったのが、予想以上の参加希望者を得たため、ホテルから出してもらった目的地までの送迎バス(28人乗りを2台)の運行の調整に苦労した。限られた時間内に2つの目的地を回るということで、合宿前における程度の参加人数を把握しておくべきだった。

また、アンケートで挙げた時間が短い、という意見については、エクスカージョンの時間に目的地までの移動時間も含まれることや、参拝する施設数が多かった(門前町坂本コースでは、約1時間半の間に4カ所)ことが問題であったと考えられる。エクスカージョンは昼食時間も含め2時間を予定していたが、当初は出先で食べても良いとされていた昼食のお弁当を、安全面を考慮してホテル内で食べることになった。この時点で行程を見直し、もっと余裕のある行程となるよう組み直すべきであった。

7. 総括

今回の若手研究合宿交流会では将来的な融合研究を目指すため、参加者同士がコミュニケーションすることにより、お互いの研究を良く知るという企画に特に力を入れた。そのような企画のおかげで、以前にも増して大学院生同士の議論が活発化した。特にポスターセッションでは、次の企画に移ることが難しい程、ポスターを前にした参加者同士の熱心な議論が行われた。ポスターセッションの時間をこれまでの合宿よりも多く割いたにも関わらず、多数の参加者からポスターセッションの時間を増やして欲しいというコメントが寄せられた。このことから企画の盛り上がりを伺うことができる。また、海外研究者の招聘以外にも、初の試みとして名古屋大学の大学院生にも合宿に参加して頂いた。現在、学生主催のセミナー開催などを通じて、名古屋大学の学生との交流が徐々に浸透しつつある。今後も大阪大学、名古屋大学との交流を続け、お互いの研究を高めていきたい。

また、例年同様にD3以上の学生の参加が消極的であったことが問題点として挙げられる。これを解決するためには、本合宿が参加者にとって異分野の研究者が集まり議論を楽しむことのできる数少ない場であること、また、口頭発表の機会を与えるなどして、研究発表のトレーニングができる場であることが認知される必要がある。

生命機能研究科の目指す融合研究を実現するために、本合宿はその土壌作りの意味を持つと考えられる。今後も継続的に開催することによって、融合研究を実現する際に存在する垣根が徐々に低くなっていくのではないだろうか。



集合写真

< 第五回GCOE 学生主催若手合宿研究交流会 実行委員紹介 >

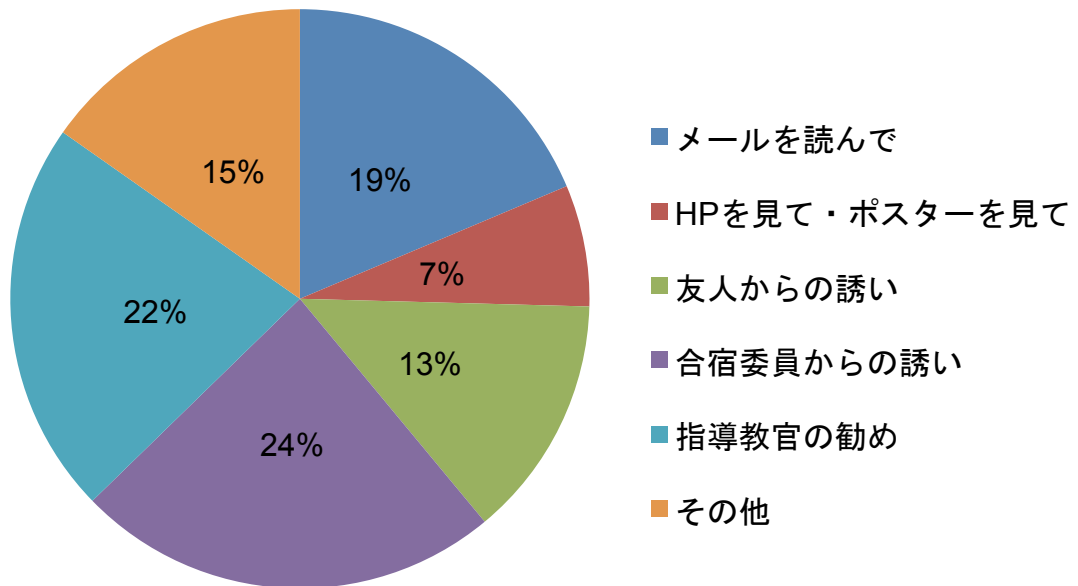
松田 一成	形態形成研究室 (近藤寿人研)	D3/D5
酒井 祐司	非平衡物理学研究室 (木下研)	D4/D5
邨次 敦	非平衡物理学研究室 (木下研)	D4/D5
番所 洋輔	共生ネットワークデザイン学講座 (四方研)	D3/D5
山岡 弘実	細胞内情報伝達研究室 (河村研)	D3/D5
金田 浩平	発生遺伝学研究室 (濱田研)	D3/D5
西田 優也	生体分子機能学 (倉光研)	D3/D5
三上 智之	形態形成研究室 (近藤寿人研)	D3/D5
渡辺 大祐	パターン形成研究室 (近藤滋研)	D3/D5
浅井 泰子	発生遺伝学研究室 (濱田研)	D2/D5
井之上 幸範	心生物学研究室 (八木研)	D2/D5
伊藤 大介	病因解析学研究室 (仲野研)	D2/D5
加藤 大典	視覚神経科学研究室 (大澤研)	D2/D5
木本 千裕	細胞内分子移動学研究室 (米田研)	D2/D5
中村 愛理子	神経可塑性生理学研究室 (小倉研)	D2/D5
西山 浩太郎	共生ネットワークデザイン学講座 (四方研)	M2/M2
樋口 洋平	脳システム構築学研究室 (村上研)	D2/D5
平山 育実	細胞機能学研究室 (田中研究室)	D2/D5
山崎 真一	ソフトバイオシステム研究室 (柳田研)	D2/D5

< 謝辞 >

本合宿は前述の通り、大阪大学生命機能研究科グローバルCOEプログラム「高次生命機能システムのダイナミクス」の支援のもと開催されました。このような機会を与えてくださった難波、柳田の両先生、海外研究者の招聘に協力してくださった先生方、様々な助言と多大なるサポートをしてくださったGCOE企画室の中島さん、そして、この合宿の開催を最後まで支えてくれた実行委員の人たち、協力して頂いた方々に、深く感謝致します。

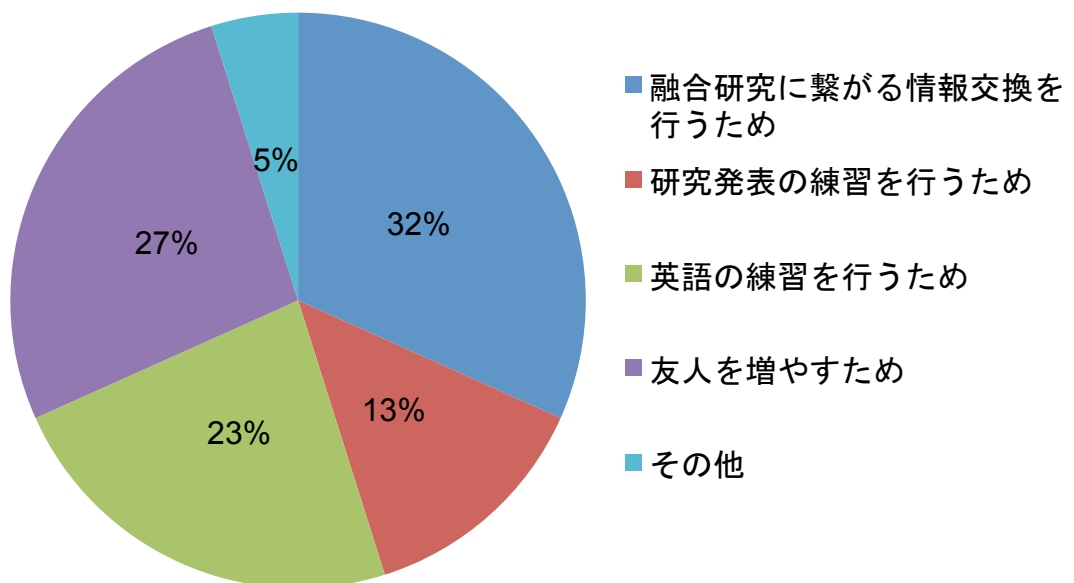
8. アンケート結果

1. 合宿に参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数選択可)



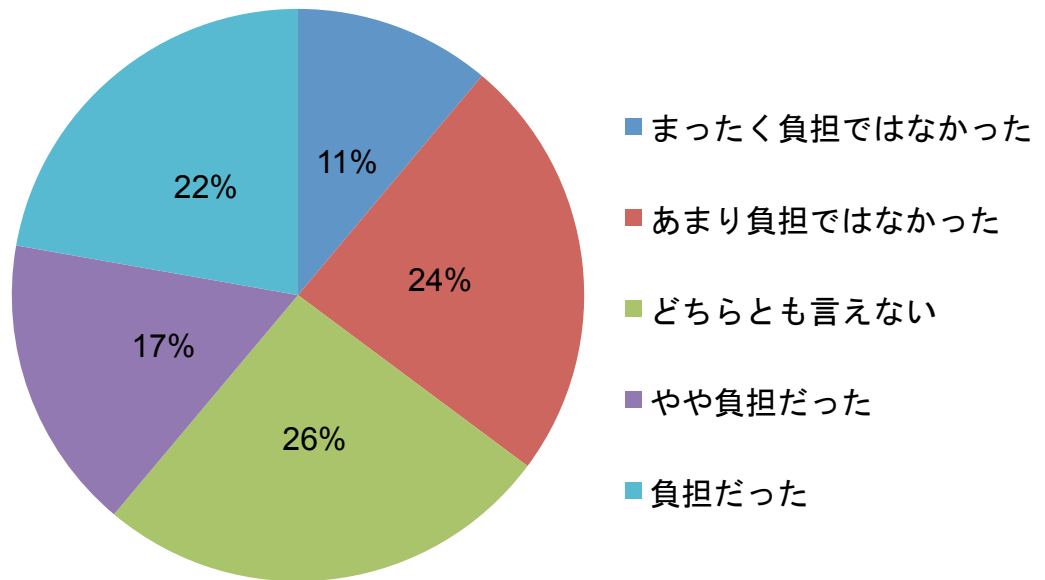
その他のコメント: GCOEコーディネーターからの勧め/研究科長からの圧力/ GCOE 委員からの勧め/ invite of the Inoue lab/義務/合宿委員だから/ GCOE of university

2. 合宿に参加した目的は何ですか。

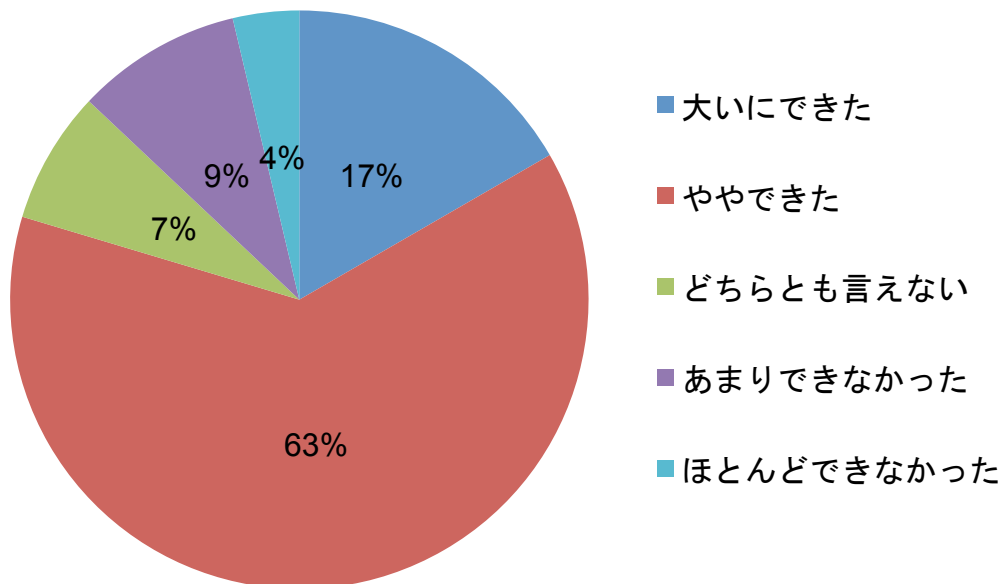


その他のコメント: 社会的問題/友人と話すため/他大学の研究を見学するため

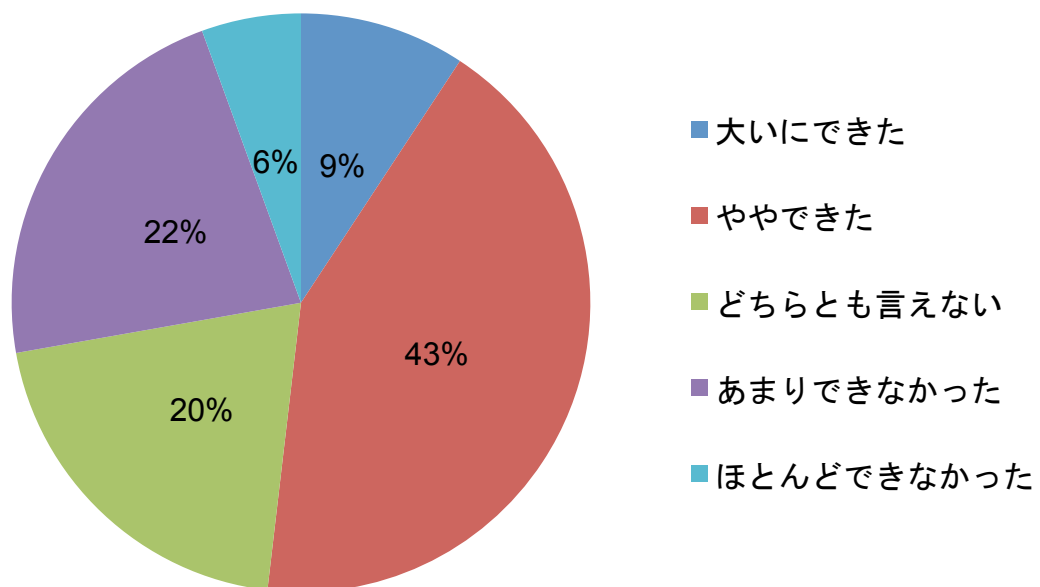
3. ポスターなどの発表資料の準備は負担ではありませんでしたか？



4. さまざまな研究分野の知識や考え方を知ることができましたか？

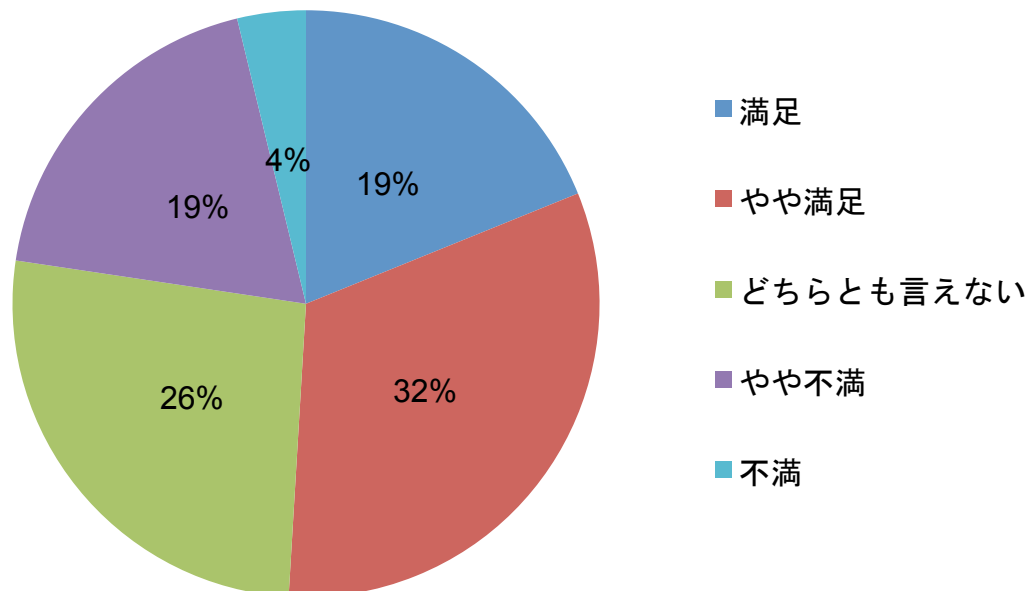


5. 自分の研究や考え方をほかの研究分野の人に知ってもらえましたか？



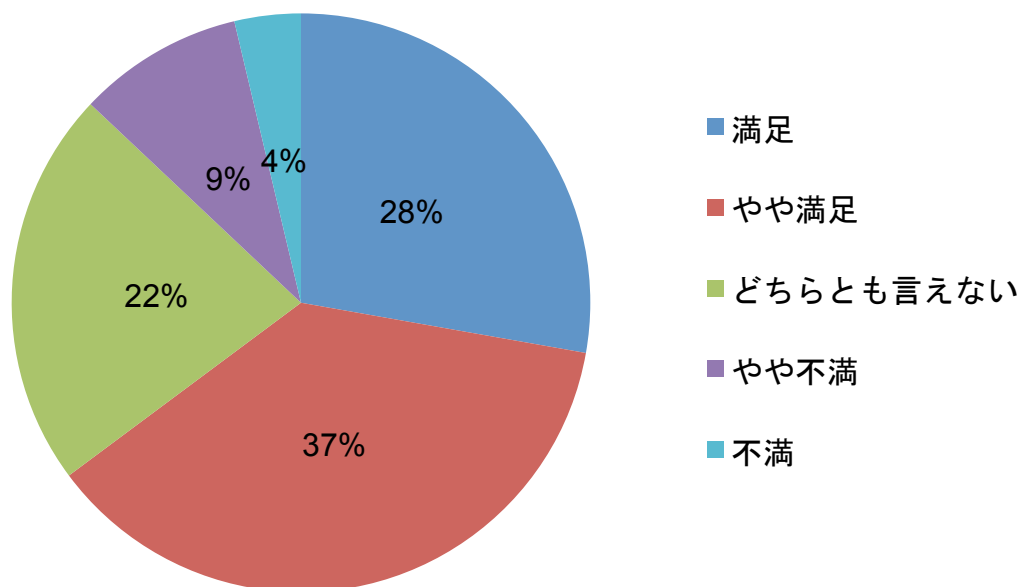
それぞれのプログラムについて内容や時間配分は満足いくものでしたか？

6. ポスターセッション



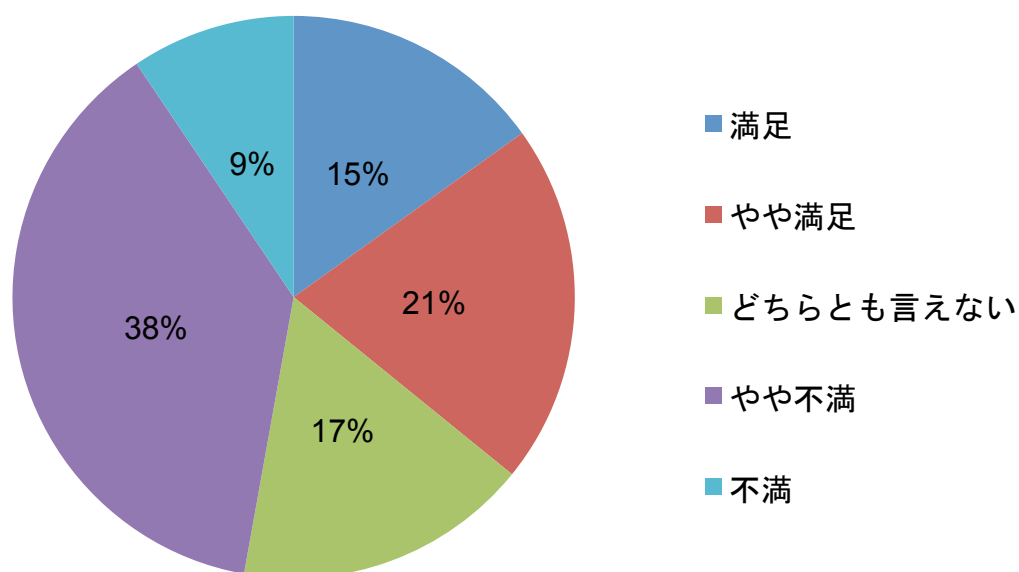
コメント：フリータイムがあって良かった/英語の練習になった/例年比/自由にディスカッションできる時間少ない/あまり回れなかった/偶数・奇数の組分けだけではきつい。もっと細分化してほしい/いろいろまわり話を聞くことができた/だいたいの興味のある所にまわられた/ポスター作成者がいないことが多かった/時間が多くてよかった/We can know the others research directly/時間、お茶、お菓子、いずれも十分/密な議論が出来てよかった/enough time and space(!) for discussion/M1には負担が大きい

7. グループディスカッション



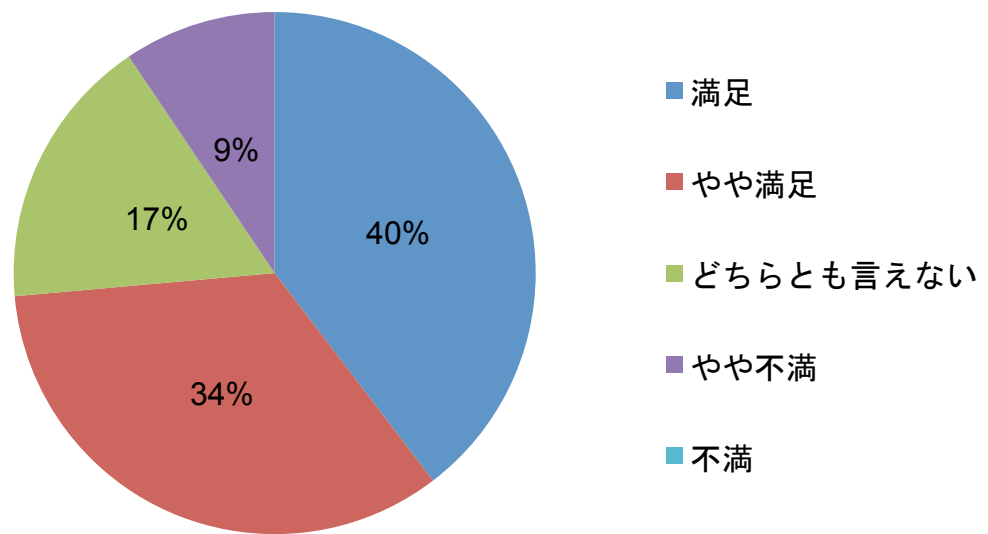
コメント: 有意義な議論ができた/専門の人の話もききながら自分たちの poor な知識でうまく伝えられる方法について考えることができた/時間はきつかったが面白い企画でした/英語を必須にしてほしい/すぐそこにポスターがあるのに、違うラボの人が行う研究紹介を聞くことに魅力を感じない/Discussion に参加できなかった/時間が足りない/周りのドクターに話をすすめてもらった/ポスターによって運命が分かれるから(時間、理解力など)/一人でもその研究室の研究内容をよく理解している人が必要かと/少し長い/時間内に完成してない班が多かった/時間はよし。各グループに各ラボの人を一人 Observer にしておいた方がいい。質疑応答の時間をもっと長く/外人とのコミュニケーションがとりにくかった/遅れていると徹夜とかなりがちだが、ほぼ全てのグループが前日に見通しがついていた/コミュニケーションをとろうと努力できたが、やはり他の研究の内容を英語でディスカッションするのが難しかった/未知の問題について議論できた/ディスカッション、プレゼンテーションするのに十分な時間だった/違う分野を英語で Discussion することは、Communication を取るのに苦労しましたが楽しかったです/ディスカッションにもう少し時間が欲しい/選んだ Lab の研究を理解するのが不十分だった/一日中グループディスカッションにしてもいいと思う/十分な時間が割り当てられてよかった/It was a good time to get to know the members./ I think my group was productive, I learned a lot how others. /最終的にグループで意見をまとめることができたがもう少し自分の研究に近い分野を選んでおいた方がよかった/もう少しアシストシステムが欲しかった

8. オープンディスカッション



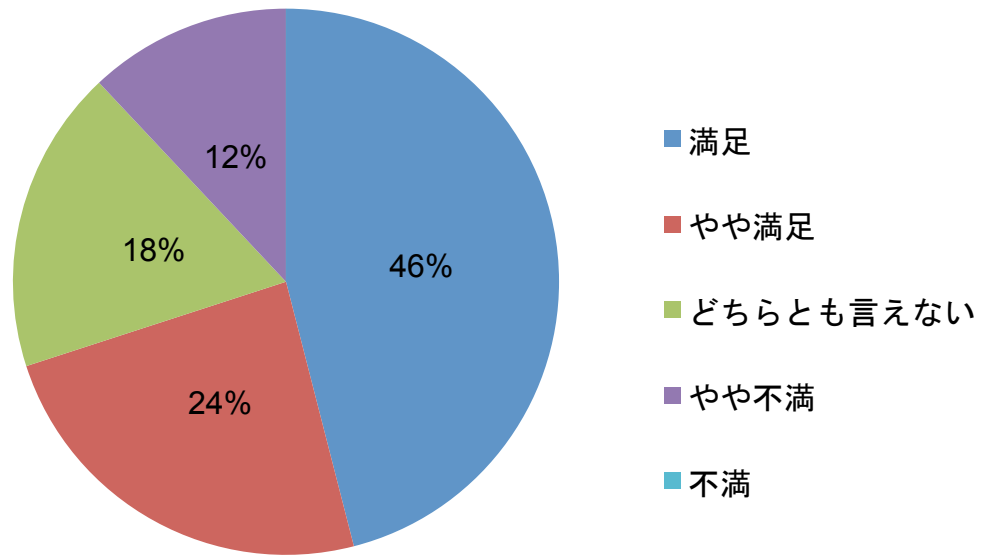
コメント：融合研究の問題点を知ることができた/新しい試みでよかったと思います。議題が少し漠然としていたと思います/違った視点で考えることができた/もう少し具体的な議題を出した方が（シチュエーションなしで）盛り上がったと思う/何をしたらいいか把握できない/テーマがよくわからない/ディスカッションの内容や意図がわかりづらく魅力的でなかった/無茶ぶり/方針転換しすぎ/時間が足りない/目的が今一つはっきりしていない/何のために融合研究するのかが語られていない/時間とディスカッションの材料が十分ではなかった/内容が程遠かった/グループディスカッションの間には入れないほうが良いと思った/議論の時間が短く、深い話にはならなかった/I would like to know concrete example of fusion research, although Dr. Anzai's talk was interesting./ I think the topic is not interesting/ 分野がちがいすぎて良く分からないままおわってしまった/特に問題ない/講演は非常に良かったがその後のディスカッションの意図がよくわからず苦勞した/Every group was not giving an opportunity to voice there views about problems of lecture separated disciplinary research/ the people are easy to talk to about all kind of topics/もっときてくださった先生と議論する時間が欲しかった。carrierがinterestingだった

9. 特別講演会



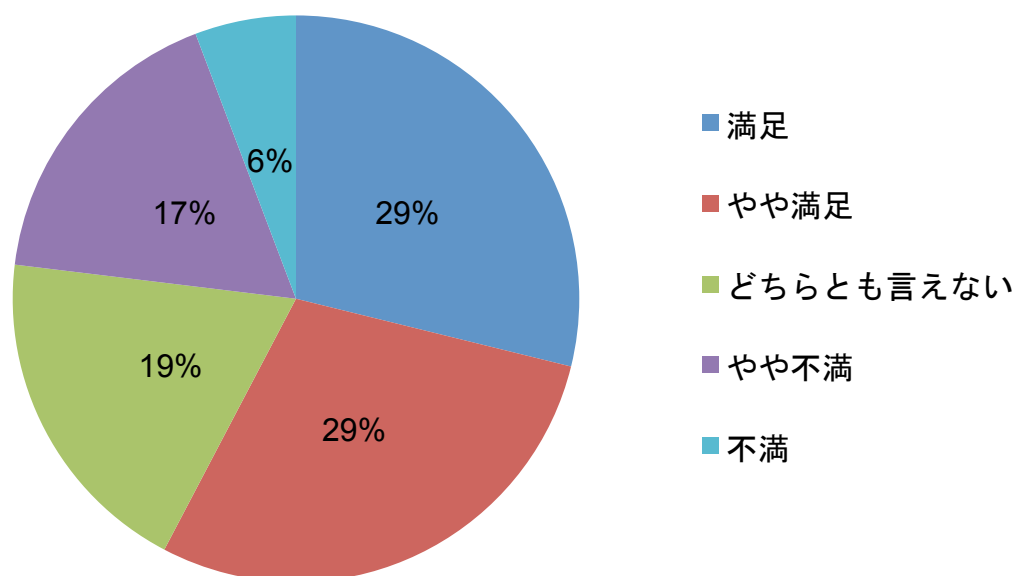
コメント:とても内容があつて面白かつた/話に付いて行きやすかつた/英語がいまいち理解につながらなかつた/興味が持てないと理解するのは難しい/新たな研究の話が聞けてよかつた/十分に時間をとつていたと思う/interesting topics and style not heard it every day life/全く研究とは関係なかつたが面白かつた。/期待していたよりもサイエンティフィックな話ではなかつた

10. エクスカーション



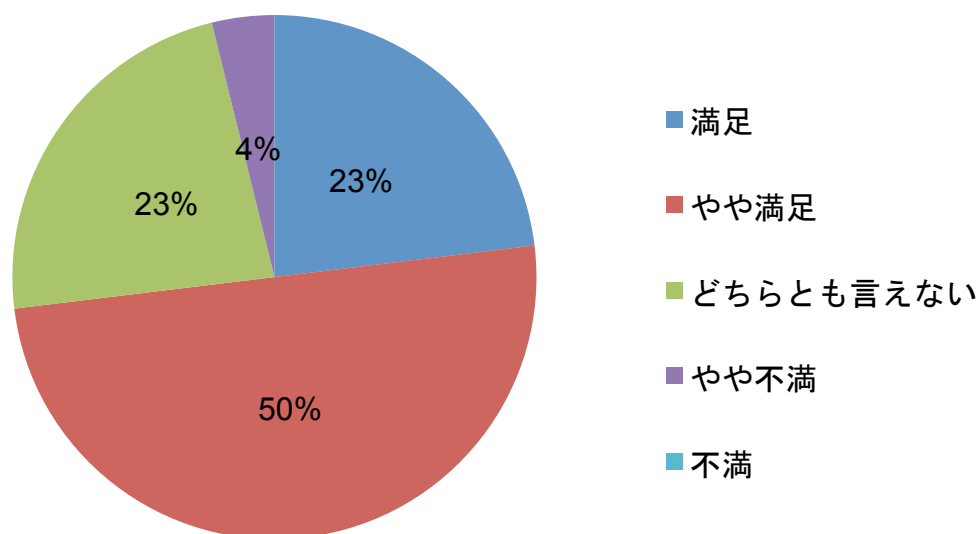
コメント：とても有意義でよい挑みだと思った/めったに行けない場所に行けて良かった。ただし慌ただしかった/日本の文化を知るよい機会だったと思う/時間が短い。もう少し長くとれないものか/後のグループディスカッションがとても眠くなった/何か買う時間がなかった/いい気分転換になりました/目的地が良かったと思う/finally got to go to take a walk in nature

11. 懇親会



コメント: ゆっくり懇親できた/良くもなく悪くもなく。良い意味でサブ化した/有意義だった/開始時間が遅い/時間がもう少し欲しい/去年のように歩き回れるほうがよかった/議論するのに使う部屋と懇親会は分けた方がよい/安西先生が言うように、コミュニケーションのためには座る姿勢はよろしくない/There should have been a separate room for party only/nice people, good layout of hotel/若いこと研究の話をしゃべることができた

12. 全体



コメント：例年よりも目的をはっきりとさせており、迷子にならなかった/経験豊富な方々の意見を聞くことができた/異分野の方々とプレゼンを行う際に本当に色々考えさせられてよかった/良い経験になった/Communifusionできたかどうか…/色々あったが全体として楽しめた/ポスターセッションのみにして1泊2日にしてほしい/外人と話せるよい機会だった/コミュニケーションや融合することの難しさを感じた/Succeeded making some connection /お陰さまで楽しく参加できました。実行委員の皆様、ありがとうございます/初めて参加しましたが、楽しかったです/ごはんおいしかった/十分なDiscussionの時間が取れていましたが、逆に一日のスケジュールが過密で他の人と話す機会があまりなかった/GDを頑張ることができた/得るものが多かったと思います